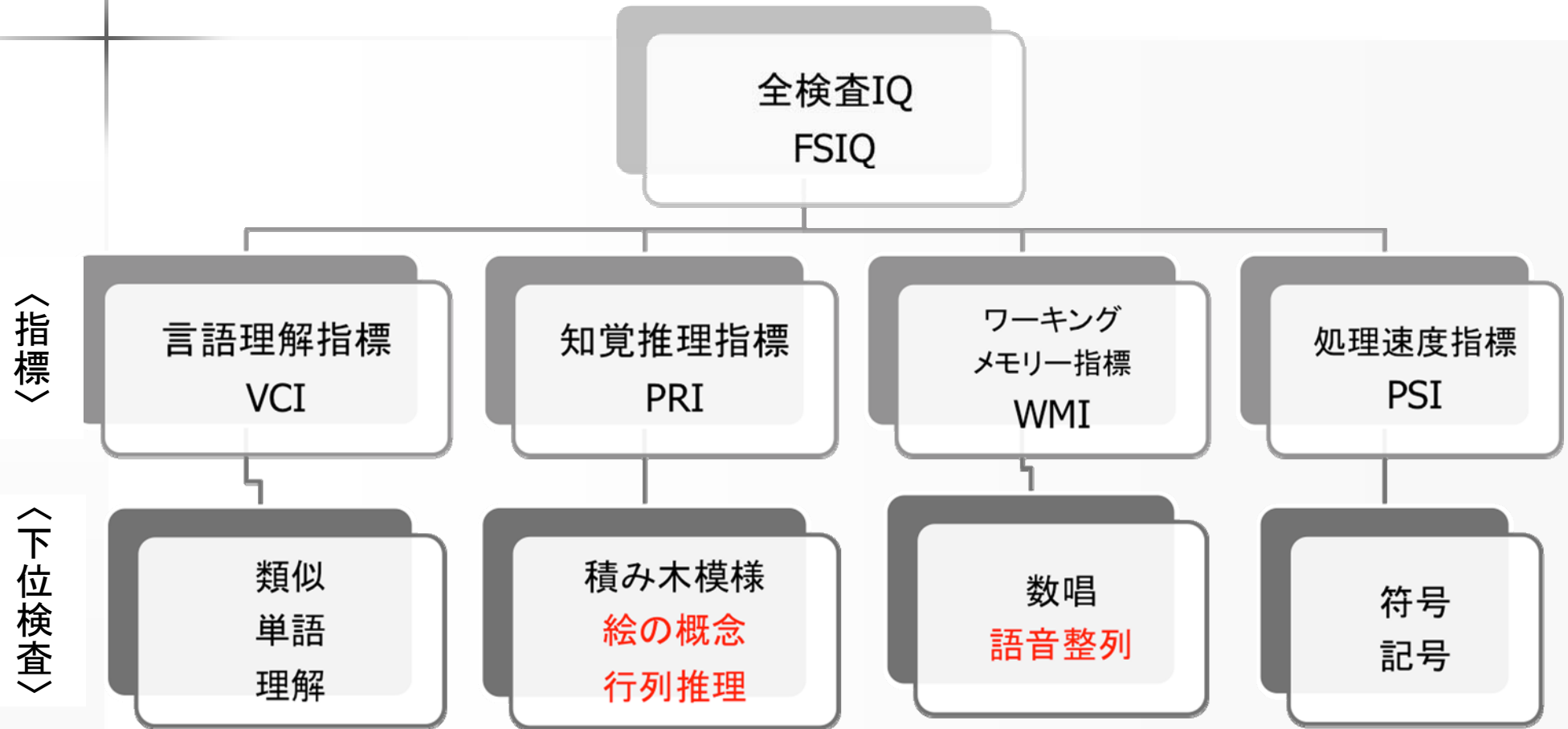


WISC-IV知能検査について

① WISC-IVの概要

- 適用年齢: 5歳0ヶ月～16歳11ヶ月
- 所要時間: 45-60分程度
- 知能指数の測定ができる
→ 全検査IQ
- 指標特典の測定
言語理解 (VCI)・知覚推理 (PRI)・
ワーキングメモリー (WMI)・処理速度 (PSI)

WISC-IVの構成



赤字・・・新たに追加された下位検査

指標得点とは

言語理解：

言語概念形成

言語による推理力・思考力（流動性能力）

言語による習得知識（結晶性能力の一部）

知覚推理：

非言語による推理力・思考力（流動性能力）

空間認知

視覚-運動協応

ワーキングメモリー：

聴覚的ワーキングメモリー（作業中の一時的記憶保持）

注意・集中

処理速度：

視覚刺激を速く正確に処理する能力（処理速度、プランニング）

注意、動機づけ

視覚的短期記憶

筆記技能、視覚-運動協応

言語理解: 言語的な情報や、自分自身が持つ言語的な知識を状況に合わせて応用する能力

知覚推理: 視覚的な情報を取り込み、各部分を関連づけて全体としてまとめる能力

ワーキングメモリ: 注意を持続させて、聴覚的な情報を正確に取り込み、記憶する能力を測定

処理速度: 視覚的な情報を事務的に、数多く、正確に処理していく能力

言語理解指標（VCI）

■ 下位検査の名称と内容

1. 類似：二つの言葉の共通点を説明させる検査
2. 単語：言葉の意味を答えさせる検査
3. 理解：日常的な問題の解決や社会的ルールなどについて答えさせる検査

■ 測定される能力

1. 言語による推理力・思考力（流動性知能）
2. 言語概念の形成
3. 言語による習得知識

言語理解

- 単語：単語を聞いて、その意味を答える課題
(財布ってなに?)
(言語発達水準、単語「問い」に関する知識)
- 理解：日常的な問題の解決方法や社会的ルールに関する質問に答える課題
(お金を拾ったらどうする?)
(実践的知識を表現する力、過去の経験や既知の事実を正確に評価する力、習慣的な行動基準についての知識)
- 類似：共通の概念を持つ2つのことばを聞いて、どのように似ているかを答える課題
(バナナとリンゴの共通点は?)
(論理的でカテゴリー的な思考力)

知覚推理指標 (PRI)

■ 下位検査の名称と内容

1. 積木模様： モデルの模様通りに積木を構成
2. 絵の概念： 共通の特徴をもったグループになるよう、各段から絵を一つずつ選ぶ
3. 行列推理： 選択肢の中から、空欄に当てはまる絵を選ぶ

■ 測定される能力

1. 非言語による推理力・思考力 (流動性知能)
2. 空間認知
3. 視覚－運動協応

知覚推理

- 積み木模様: 積み木や絵カードで見本に示された模様を、決められた個数の積み木を組み合わせて作る課題
(部分を全体にまとめて見る力、全体を部分に分けて見る力を測定する)
- 絵の概念: それぞれの段から共通の特徴のある絵を1つ選ばせる(食べるもの、身につけるもの、水に関わるもの等)
(カテゴリー的思考能力や、誤答をあまりにも早く選択することの抑制能力を測定する)
- 行列推理: 複数の絵の法則性を見つけ、5つの選択肢から空欄の場所を選ぶ課題
(非言語的抽象課題解決力、帰納的推理、空間推理、抑制能力)

ワーキングメモリー指標 (WMI)

■ 下位検査の名称と内容

1. 数唱： 数列をそのまま復唱する『順唱』と、逆の順で答えさせる『逆唱』の二項目から構成される
2. 語音整列： 口頭で伝えられる数と文字の組合せを、数は昇順に、文字はあいうえお順に並べ替えて答える

〈例〉「る・8・ろ・4・り」 ⇒ 「4・8・り・る・ろ」

■ 測定される能力

1. 聴覚的WM
2. 注意、集中

ワーキングメモリ

- 数唱：不規則に読まれた数字を聞いて、同じ順番（順唱）や逆の順番（逆唱）で答える課題
（口頭での指示を正しく聞き取る能力・記憶する能力）
- 語音整列：読み上げられる数字とかなの組み合わせを聞き、数字を昇順に、かなを、五音表の順に並べ替えて解答する
（4、お、1、い→1、4、い、お）
（注意の持続能力・短期記憶能力・記憶した事を頭の中で操作する能力）

処理速度指標 (PSI)

■ 下位検査名と内容

1. 符号： 制限時間内で、図形・または数と対になった記号をできるだけ多く書き写す
2. 記号： 制限時間内で、左側の刺激記号が右側の記号グループの中にあるかどうかを、できるだけ多く判断させる

■ 測定される能力

1. 視覚刺激を速く、正確に処理する力
2. 注意、動機づけ
3. 視覚的短期記憶
4. 筆記技能、視覚－運動協応

処理速度

- 符号：数字に対応した幾何学的な記号を、時間内にできるだけ速く見本と同じように書き入れる課題
(指示に従う力、動作の機敏さ、事務処理の速度と正確さ、視覚的短期記憶)
- 記号探し：できるだけ速く、見本と同じ記号の有無を判断して、「ある」か「ない」に○をつける課題
(視覚的探索の速さ)

②WISC-IVの結果のまとめ方

全検査IQ:全般的な知的発達水準を把握

IQ80～IQ120までが平均内のレベル

IQ70～IQ79 境界線レベル

IQ69以下 軽度の遅れが認められるレ

ベル

③検査場面での観察ポイント

【新規場面での反応】

☆初対面の人への反応はどうか？

- ・人見知りしないで、すぐに慣れて話す
- ・緊張しすぎて、意思表示ができない

☆初めての場所への反応はどうか？

- ・極端に緊張して、部屋に入るまでに時間がかかる
- ・すぐに席に座らず、部屋の中を探索する

検査場面での観察ポイント

【検査態度】

☆集中力は？

- ・部屋の中の物に気が散る
- ・説明を聞いていなくて、何度も聞きなおす

☆多動

- ・検査中、席を離れてしまう
- ・座っていられるが、体がそわそわと動く

☆衝動性

- ・気になるものがあるとさわってしまう
- ・説明を最後まで聞かずに、答える

☆こだわり

- ・道具をきちんとそろえたがる
- ・時間を気にせず、必要以上に丁寧に取り組む

検査場面での観察ポイント

【課題への取り組み方】

☆質問への反応はどうか？

- ・質問の意図とはずれた答えをする
- ・ワンパターンでの答え方をする

☆発音はどうか

- ・構音不明瞭
- ・幼い言葉づかい

☆不器用かどうか

- ・鉛筆の持ち方がぎこちない
- ・書いた線が枠からはみ出す

WISC-IVの特徴に応じた支援方法

- 考えられるお子さんの特徴や支援方法をまとめましたので、参考にしてください
- お子さんによって特徴は異なると思いますので、この中から必要な支援を用いていただければと思います。

言語理解が苦手な場合

- ◎言葉での指示は、やさしい言葉で簡潔に、ゆっくり、はっきり伝える。
- ◎一度で理解できないときには、くり返して言う。理解できたか確認する。
- ◎絵や図、文字、お手本を示して、説明を伝える。
- ◎約束は、紙に書いて確認し、見える場所に貼っておく。

ワーキングメモリーが苦手な場合

- ◎聞く準備が出来ているか確認し、集中を促してから話す。
- ◎説明は、短く伝える。
- ◎覚えることを意味づけして、覚えやすくする
(数字のごろ合わせなど)
- ◎覚えておくことをメモする習慣をつけてもらう。

知覚推理が苦手な場合

- ◎新しい場面での状況判断が苦手です
- ◎片付けは、しまう場所に目印や文字を書いて分かりやすくする
- ◎場面や状況を、分かりやすい言葉で、ひとつひとつ順を追って説明する
- ◎具体的な道具を使って理解してもらおう
- ◎図形などの特徴を、言葉で定義づけたり、意味づけする(三角を家の屋根など)

処理速度が苦手な場合

- ◎課題に取り組む時間を十分にとり、ゆとりをもって取り組ませる。
- ◎本人が使いやすい筆記用具(大きなマス目のノートなど)を用意する
- ◎書き写す手本をなるべく子どもの近くに置く。
- ◎写すことが難しければ、まずなぞることから始める

言語理解とワーキングメモリーが苦手な場合

＜子どもの状態像として考えられること＞

- ◎視覚的な処理、絵や図の理解や操作は全般的に得意
- ◎聴覚的な処理、ことばの理解や操作は全般的に苦手

＜支援の例＞

- ◎視覚的な手がかりを用いる
- ◎具体物を使用する
- ◎実践させる

知覚推理と処理速度が苦手な場合

＜子どもの状態像として考えられること＞

- ◎聴覚的な処理、ことばの理解や操作は全般的に得意
- ◎視覚的な処理、絵や図の理解や操作は全般的に苦手

＜支援の例＞

- ◎ことばで説明を加える
- ◎ことばで定義つける(例:図形の特徴をことばで説明する)
- ◎一つずつ順を追って説明する

言語理解と知覚推理が苦手な場合

＜子どもの状態像として考えられること＞

- ◎聴覚的な記憶（複雑な言語理解を伴わないもの）は得意
- ◎形を正確にとらえることや、視覚的記憶は得意
- ◎継次的に処理することは得意
- ◎関連性の理解や類推など、複雑な処理は（聴覚、視覚共に）苦手

＜支援の例＞

- ◎一つずつ順を追って説明する
- ◎過大な内容を分かりやすく提示する
- ◎パターンを示す

言語理解と処理速度が苦手な場合

<子どもの状態像として考えられること>

- ◎形の操作、空間的な情報の把握・処理は得意
- ◎聴覚的な記憶(複雑な言語理解を伴わないもの)は得意
- ◎ことばの理解や操作は苦手
- ◎視覚的な記憶(イメージや意味づけしにくいもの)は苦手

<支援の例>

- ◎視覚的な手がかりを用い、具体物を使用する
- ◎実践させる
- ◎覚えるべき内容は、簡単なことばで分かりやすく伝える

知覚推理とワーキングメモリーが苦手な場合

<子どもの状態像として考えられること>

- ◎ことばの理解や操作は得意
- ◎形を正確にとらえること、視覚的な記憶は得意
- ◎形の操作、空間的な情報の把握・処理は苦手
- ◎聴覚的な記憶(イメージや意味づけしにくいもの)は苦手

<支援の例>

- ◎ことばで説明を加える。ことばで定義づける
- ◎覚えるべき内容は、意味づけをして、覚えやすくする

ワーキングメモリーと処理速度が苦手な場合

<子どもの状態像として考えられること>

◎ことばの理解や操作は得意

◎形の操作、空間的な情報の把握・処理は得意

◎関連性の理解や、類推など、複雑な処理は得意

◎聴覚的および視覚的な記憶(イメージや意味づけしにくいもの)は
苦手

<支援の例>

◎ことばで説明を加える。ことばで定義づける

◎視覚的な手がかりを用いる。具体物を使用する。実践させる

◎覚えるべき内容は、意味づけをして、覚えやすくする

言語理解が苦手な場合の特徴や支援方法

<お子さんの状態として考えられること>

- ・絵や図などの目で見えた情報の理解や操作は全般的に得意
- ・複雑な言語理解を伴わない聴覚的な記憶は得意
- ・言語での理解や表現は苦手

<学習面などでの困難として考えられること>

- ・言語での指示の理解が難しく、聞き返すことがある
- ・音読はできても内容を理解していなかったり、ことばの意味を間違えて用いる
- ・作文を書く際、内容的に乏しかったり、何を書いて良いか分からない
- ・算数の文章題を理解するのが難しい
- ・日時や場所、あげる・もらうなどの理解と表現が不正確になってしまう
- ・出来事や感情などを言語で説明できず、誤解されてしまうこともある

<支援方法・工夫について>

- ・言語指示は、分かりやすいことばで、ゆっくり、はっきり、短めに伝える。
また、一度で理解できない時には、繰り返して言う
- ・絵や図、文字やモデルを示して伝える。また、実際の生活場面と結びつけたり、お手本を示したりする
- ・作文を書く際、写真や資料などを手がかりとして与える
- ・文章題を解く際、キーワード(例:「あわせて」「のこりは」)に注目させたり、内容を絵や図で示す
- ・約束は紙に書いて確認する

ワーキングメモリーが苦手な場合の特徴や支援方法

<お子さんの状態として考えられること>

- ・言葉での理解や表現が苦手
- ・絵や図などの目で見えた情報の理解や操作は全般的に得意
- ・イメージや意味づけしにくい、耳からの情報の記憶は苦手

<学習面などでの困難として考えられること>

- ・聞き間違いがあったり、聞いたことをすぐに忘れてしまう
- ・ちょっとした雑音でも、注意がそれやすい
- ・ひらがなやカタカナで、書けない文字がある
- ・簡単な計算の暗算が難しかったり・九九が暗唱できない
- ・友達の名前や約束を覚えていられない
- ・相手の話を最後まで集中して聞いていられない

<支援方法・工夫について>

- ・注意の集中を促してから話しかけ、説明や指示は短めにする
- ・一度で理解できない時には指示を繰り返す
- ・絵や図、文字やモデルを補助的に示して伝える
- ・覚える事柄を意味づけして覚えやすくする
- ・紙を使って計算させる、九九を覚えられない場合は、九九表を使っても良いことにする
- ・覚えておくことは、メモを取る習慣をつける

知覚推理が苦手な場合の特徴や支援方法

<お子さんの状態として考えられること>

- ・耳から入る情報を聞いて覚えたり、理解することは得意。また、言語での理解や表現は全般に得意
- ・目で見た情報から推理したり、まとめることが苦手(例:パズル)
- ・物事を空間的、総合的に処理することが苦手。また、動作を表現することも苦手

<学習面などでの困難として考えられること>

- ・聞いた情報を頭の中で、イメージしてまとめることが難しい(例:なぞなぞ、算数の文章題)
- ・文章を要約したり、話をまとめにくい(例:日記、作文)
- ・形を弁別したり、まとめることが難しく、表や図にまとめにくい
- ・机の中などの整理整頓が苦手で、どこに片付けて良いか考えることが難しい
- ・場面や状況、社会的なルールが理解しにくく、その場に合った行動ができないことがある

<支援方法・工夫について>

- ・ひとつひとつ順を追って、言葉で説明する。また、部分から全体へ説明を行う(例:段落を押さえてから、全体へ説明する)
- ・頭の中だけでイメージさせるのではなく、具体物を用いる。言葉での説明もつける
- ・図形の特徴などは、言葉で定義づける。また、位置や場所は上下左右、順序、方向、目印を言葉で確認する(例:上から○段目、左から△番目)
- ・机など、持ち物をしまう場所を色づけやラベルなどで目印をつけておく
- ・ルールは言葉を用いて一つずつ確認を行う
- ・場面や状況、その時の気持ちなどを分かりやすい言葉で伝える

処理速度が苦手な場合の特徴や支援方法

<お子さんの状態として考えられること>

- ・耳から入る情報を聞いて覚えたり、理解することは得意。また、言語での理解や表現は全般に得意
- ・目で見ただけの情報から推理したり、まとめることは得意
- ・目で見ただけの情報を覚えることは苦手
- ・不器用さがある

<学習面などでの困難として考えられること>

- ・文字を書き写すことが難しく、書くのが遅い
- ・書くときの姿勢や、鉛筆などの筆記用具の持ち方がぎこちない
- ・文章を読むのが遅く、似た形の文字と読み間違える
- ・計算の記号(+、-、×、÷)の理解が難しく、計算に時間がかかる
- ・必要な道具がすぐに見つけれず、授業の準備が間に合わない
- ・活動時間内に課題が終わらなかつたり、板書を映し終わることができない

<支援方法・工夫について>

- ・ひとつひとつ順を追って、言葉で説明する。また、図形などの特徴を言葉で定義づけたり、覚える事柄を意味づけして覚えやすくする
- ・文章は分かち書きにして示す
- ・課題に費やす時間を充分に取ったり、使いやすい筆記用具(例:マス目の大きいノートなど)を用意する
- ・文字は子どもが読みやすい大きさにしたり、見本を子どもの近くに置く
- ・授業によって必要な準備や用具のチェックリストを作る
- ・課題の優先順位を考え、操作時間内に行う課題を選んでおく